

## 北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第105回本部会議 記録

日 時／令和4年4月6日（水）

15：30～：15：55

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

### 【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第105回本部会議を開催します。まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

### 【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。まずスライド1でございます。主な指標の状況につきまして、昨日4月5日時点で新規感染者数ですが今週先週比で1を上回っておりまして、人口10万対では、新規感染者数は札幌市が311.4人、札幌市を除く地域で214.4人、全道で250.8人と、いずれの地域でも増加が見られておりまして、療養者数も同様の傾向にございます。また病床使用率ですが、札幌市で21.3%と前日から5%程度程増加してございまして、市からは集団感染の影響などによるものとの情報をいただいております。この後その状況などについてご報告いただきますが、道としても引き続きその動向が一時的なものか否かというところを見極めてまいります。このほか、全道の病床使用率ですけれども、18.4%、札幌市を除く地域が17.0%と足下で若干増加してございます。

続いてスライド2です。各圏域ごとの状況です。これらを見ますと新規感染者数は全ての圏域で今週先週比が1を上回るなど増加傾向が見られておりまして、釧路・根室圏など地域によっては大幅に増加している状況です。一方病床使用率ですが、多くの圏域で横ばいの状況ではございますが、足下で増加傾向にある圏域が複数存在しております。

続いてスライド3、総評です。医療提供体制です。減少傾向が続いてきた療養者数ですが、その後横ばいで推移したものの先週来、7日連続で増加しておりまして、人口10万人当たりでは353.4人となっています。また減少傾向が続いてきた病床使用率も先ほどのとおりここ数日増加しておりまして18.4%となっているほか、札幌市においては21.3%となっております。

次に感染状況です。新規感染者数は増加に転じておりまして、今週先週比が8日連続で増加、人口10万人当たりでは250.8人となっております。年代別ですが30代以下が約7割となっております。引き続き若年層が感染確認の中心となっております。とりわけ20代から30代の割合が高まりながら推移している状況です。

今後の対策です。年度初めの時期となりまして進学や就職、人事異動により普段会わない方と接する機会が多くなりますことから、マスクの着用や健康管理はもとより、こまめな換気など基本的な感染防止行動の徹底を図ります。ワクチンですが、4月9日から再開いたします道のワクチン接種センターの活用や、職域追加接種への支援とともに、新たな接種対象であります12歳以上17歳以下の方も含めた若年層への接種促進をはじめ、幅広い世代での3回目接種の加速化を図ります。

スライドの4、総評の続きになります。感染性がより高いとされておりますオミクロン株のBA.2系統ですが、道内ではこれまで23件が検出されておりまして東京都や大阪府など

では置き換わりが進んでございます。道内においても同様の傾向となることが懸念されますので、引き続きゲノム解析によるモニタリング実施など、新たな変異株の動向を監視していきまるとともに、高い警戒感を持って感染対策に取り組んでまいります。

次にスライド5以降ですが、何点か主要な動向などを補足説明いたします。

スライドの20をご覧くださいと思います。年代別の新規感染者数ですが、30代以下それから60代以上ともに増加傾向で推移してございまして、入院患者数は2月末以降、減少傾向にありましたものの足下で増加が見られております。

続いてスライド23をご覧くださいと思います。年代別の新規感染者数の割合ですが、最も割合が高い10代以下は足下で概ね横ばいの傾向となつてございまして、一方、20代から30代は徐々に増加傾向となつており、引き続き30代以下で全体の約7割を占めている状況にありますことから、若年層での感染の広がりや高齢者などへの伝播に十分に注意が必要です。

スライド25をご覧くださいと思います。3回目接種の状況ですが、4月4日現在の3回目接種者数はVRSベースで約222万人と全人口に対する接種率は42.5%となっております。このうち65歳以上の高齢者の方につきましては、約136万人、接種率は80%を超えて81.3%となっております。

続いてスライド27をご覧くださいと思います。道のワクチン接種センターですが、3回目接種の一層の加速化を図りますため、道医師会、また札幌大などと連携協力のもと4月9日から運営を再開いたします。現在4月9日から24日までの予約を受付中でございまして、全体的に予約枠に空きがありますので、引き続き、広報活動などを進めてまいります。

最後にスライドの28をご覧くださいと思います。上から二つ目の丸です。3回目接種の加速化に向けまして、集中的な広報・啓発をただ今実施中でございまして、新たに接種対象年齢となる方も含め、今後とも希望される方が円滑に接種を受けられますよう、市町村とも連携して取り組みを進めてまいります。

最後、四つ目の丸です。4回目接種ですけれども、接種対象者や接種間隔を含め、引き続き、国の審議会などで議論することとされておりまして、国では今後、3回目接種を受けた全ての方を対象に実施することも想定をして、現時点から2ヶ月程度を目途に、接種券の発送準備を完了するよう自治体へ要請しております。道いたしましては、国からの情報収集や市町村への情報提供などに努めてまいります。

その他のスライドにつきましては、本日の説明に関するデータでございまして後程ご覧くださいければと思います。まず資料の1の説明は以上でございます。

続いて資料の2をご覧くださいと思います。先ほどの資料1、道内の感染状況等について、専門家また有識者の方々のご意見を伺いますとともに、市町村や関係団体にも事前にお知らせしているところです。有識者、専門家の皆様からは概ね妥当である旨のご意見をいただきまして、その主なものについてご紹介いたしますと、1や2にありますとおり、若い世代のワクチン接種の普及に努めることや、3にもありますとおり、新規感染者の増加傾向が明確なため、再拡大防止対策の周知を事業者や施設への呼びかけに加え保健所業務が逼迫しないよう体制整備を図る必要があること。また4にありますとおり、小中学校や高校が新学期を迎えるため、学校内での感染予防策が鍵となるほか、小児のワクチン接種の啓発がこれまで以上に必要などといったご意見が寄せられてございまして、こうした面につきましては、今後の対策の参考としてまいります。

私からの説明は以上でございます。

#### 【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から、説明をお願いいたします。

#### 【山口札幌市感染症担当部長】

札幌市の山口でございます。札幌市の感染状況につきまして、資料3に基づいてご説明いたします。それでは、スライドをご覧ください。新規感染者の1週間の合計につきましては、昨日の4月5日時点では6,108人、人口10万人当たりでは311.4人と、3月下旬以降、緩やかな増加傾向が見られてございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。入院患者数のグラフでございますが、黄色の入院患者数につきましては、昨日の時点で134人となっております。直近では増加が見られているところでございます。この入院患者数につきましては、医療機関からの報告等の関係から週明けに大きく増加する傾向が見られておりますが、実際の入院患者数は数日をかけて増加している状況でございます。この背景といたしまして、施設で発生しております集団感染事例の影響もあることから、このような増加傾向が継続するかについては今後も動向を注視していく必要があると考えております。なお新規の入院患者の大半が軽症の方であることから、入院期間が長引くことはなく直ちに病床の不足に繋がるような状況はないものと考えてございます。重症の患者数につきましては、赤の折れ線グラフですが、0人となっているところでございます。

それでは最後のスライドをご覧ください。検査件数でございます。直近の1週間では14,650件の検査を実施してございます。そのうちの陽性率ですが、昨日の時点で41.7%と4割を超えておりまして、感染する可能性の高い方を優先して検査を実施していることもありますけれども、高い数値で推移をしている状況でございます。新年度が始まり、人との交流も増える中、新規感染者数も増加傾向が見られておりますが、感染の再拡大を防ぐためにも、これまで続けてきたマスク着用や手指の消毒など基本的な感染防止策について改めて確認し、引き続き取り組んでいくことが重要と考えてございます。

以上です。

#### 【副本部長（小玉副知事）】

次に、各振興局から、順次発言をお願いします。

まず、十勝総合振興局長から、お願いします。

#### 【芳賀十勝総合振興局長】

十勝です。資料4、十勝管内における感染防止対策の取り組みについてのスライドをご覧ください。十勝管内の新規感染者の発生状況についてであります。2月以降、感染者が急増しており、2月、3月の累計はそれぞれ3,000人を超えているところでございます。特に右上のグラフのとおり、3月上旬には一時、感染者の減少傾向は見られたものの、3月下旬から4月にかけては、1日の感染者が100人を超える日が続くなど、高止まりしており、感染者の特徴としては、小学生以下とその家族への感染というケースが多く見られる状況です。一方、病床使用率は、3月24日以降20%を切る日が続いている状況となっております。

す。十勝総合振興局としてしましては、陽性者や濃厚接触者への対応として、帯広保健所への振興局職員の応援に加え、会計年度職員など24名配置するなど、保健所の体制強化を図り必要な対応を行っているところです。感染防止対策については、地元メディアを通じ、引き続き基本的な感染防止行動の実践について周知を図っておりますが、特に、新学期を迎える学生、生徒に対しては、十勝教育局を通じて、改めて感染防止対策の徹底を図っていくこととしております。また、感染防止に向けた管内市町村長との合同メッセージをホームページなどで発出しているほか、今後は、帯広市をはじめとした市町村や業界団体などとも連携し、感染防止対策の周知をより効果的に図っていく考えです。

次に、感染者への対応の強化についてですが、十勝管内のコロナ病床を12床増床し、最大162床を確保するとともに、保健所の疫学調査の結果を踏まえ、事業者や住民が感染した後に、適切な行動を取ることができるよう、感染したときの対応について関係団体などへの周知を繰り返し実施しているところです。さらに、ワクチン接種を促進するため、市町村の集団接種や、職域接種実施体制の整備に向けた支援のほか、新聞広告による対象者への接種の検討を呼びかけたところです。また、こうした感染防止対策に加えまして、第三者認証の取得促進を引き続き行うほか、商工会議所が実施する、利用促進キャンペーンなどで認証店をPRしてもらうなど、感染リスクに配慮しながら、社会経済活動の再開に向けた取り組みを行っております。年度始めを迎え、人事異動や入学式、その後の歓迎会など感染リスクが高まる場面が多くなることから、振興局としては、十勝管内の関係機関団体と一体となって、気を緩めることなく、感染防止対策の徹底などに取り組んでいく考えでございます。

以上です。

#### 【副本部長（小玉副知事）】

この他、各部、振興局からご発言はございませんか。なければ、本部長からお願いいたします。

#### 【本部長（知事）】

新年度における最初の対策本部となりますが、4月1日付け人事異動による新体制のもと、国、市町村や関係団体の皆様としっかりと連携をし、新型コロナウイルス感染症への対応に取り組んでまいります。改めて皆さんよろしく申し上げます。本日の新規感染者数は2,370人と、人口10万人当たりでは258.3人となりました。これまで横ばいで推移していましたが、先週比は本日を含めまして、9日連続で増加しております。地域によっては、大きく増加している状況となっております。30代以下の若い方々が、全体の7割を占めておりますが、特に20～30代の割合が増加してきております。若年層での感染の広がりや高齢者等への伝播により一層の警戒が必要になります。病床使用率についても、ここ数日増加しています。先ほど報告がありましたが、特に札幌市は、本日、21.3%と大きく増加している状況にあります。今後の動向について、慎重に見極めていく必要があります。また、東京都や大阪府では、より感染力が強いとされる、BA.2系統の置き換わりが進んでいます。道内におきましては、これまで23件確認されていますが、今後、置き換わりが進むことが懸念されます。道民の皆様には、こうしたことも念頭に置きながら、感染防止行動を心がけていただきたいと思います。こうした中、企業の皆様や学校において

も、新年度、新学期がスタートします。年度始めの時期は、それぞれの場で普段会わない人と接する機会が多くなります。感染の拡大を抑えていくためには、感染リスクの高まる場面や感染が広がっている場所における感染防止行動が重要であります。BA.2系統への置き換わりも念頭に置きながら、改めて注意喚起を行うなど、4月17日までの間、再拡大防止対策に基づく取組の徹底を図るよう改めて指示します。特に、年度始めは、新入生や新入社員などの方々を迎え、歓迎会が多くなる時期です。お店につきましては、第三者認証店を選ぶ、会話の時にはマスクを着用することなど、飲食の場面から感染が広がることをできるだけ抑える行動をお願いします。

最後に、ワクチンの接種についてですが、市町村の皆様や医療関係者の皆様のご尽力によりまして、8割を超える高齢者の方が、3回目接種を終えられました。道としても、「北海道ワクチン接種センター」において、3月までに、2,645人の高齢者の方の接種を終えることができました。ワクチンには、初回接種から6か月以降の3回目接種により、オミクロン株に対しても、有効性が回復するといった国の専門家の見解もあります。引き続き、道のセンターの活用、職域接種への支援を図るほか、新学期が始まる12歳から17歳までの方を含め、幅広い世代での3回目接種が進むよう、しっかりと市町村をサポートしてください。さらに、4回目接種については、現在、国の審議会等で議論されていますが、実施に当たっては、必要なワクチンの安定的な供給と、公平に接種できる環境づくりが重要となります。国からの情報収集や市町村への情報提供に取り組むよう指示します。

私からは以上です。

#### **【副本部長（小玉副知事）】**

本部長から指示のあったことにつきまして、本部員は必要な対応をお願いします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第105回本部会議を終了いたします。

(了)